

令和 2 年 9 月 3 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02012

研究課題名(和文) 老いを迎える語りの揺らぎ: 北タイ都鄙における高齢者ケアをめぐる社会関係の動態

研究課題名(英文) Shifts in Narratives of Aging: Dynamics of Social Relations Surrounding Elderly Care in Northern Thailand

研究代表者

速水 洋子 (HAYAMI, Yoko)

京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授

研究者番号：60283660

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：現地調査は二度の短期補足調査のみだったが、北タイにある国営の身寄りのない高齢者施設入居者という、タイでも最も周縁化された高齢者の語りを中心に、生い立ちや家族との関係、施設に入所するに至った経緯や施設での日々に関する語りについて考察した。医療や精神分析等の分野における患者の語りに関わる分析に学びつつ、分析方法を検討して考察を加えた。また、高齢者のための地方自治体などによる活動をめぐる語りも収集しており、合わせてタイ社会における高齢者ケアに関わる調査のまとめを、英文投稿論文や編著にて刊行し、また特に最終年度は諸学会にて本課題の成果をまとめ、口頭で発表する機会が少なからず得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

子が老親を介護することを当然とする規範や言説の強いタイ社会にて、ケアの欠如の故に国立の高齢者施設に入居する高齢者は、言説や政策について正負両様のベクトルを持ちつつ、いずれにも捕われない自らの生をも語る。東南アジアにおける高齢化社会の研究は数量的マクロ分析が中心だがここではミクロな分析の方途を見出したことに意義がある。現在タイでどの様にケアが担われているのか、タイにおける高齢者ケアの社会化の研究は、ますます高齢化が進む日本とタイの今後を見通すうえで重要である。タイで口頭発表の折には、タイ人が知らないタイ社会の将来を占う重要な研究であり、政策立案者に聞いてもらいたい話だったとコメントを頂いた。

研究成果の概要(英文)：Due to unforeseen circumstances, fieldwork was limited to two very short visits. Most of the research consisted of analyses of recorded interviews performed in a state-run home for the elderly in northern Thailand who are lacking family and other care. Interviews with these most marginalized elderly in Thailand included narratives on life stories, family relationships, how they came to live in the home and their lives within the home. Analyses of patient's narratives in the medical and psychiatric disciplines provided methodological and analytical examples for performing these analyses. The researcher had also gathered data interviews with those who participate in community-based elderly care in the region. For both of these topics and on wider context of elderly care in Thailand, I was able to publish some articles and an edited book, and the final year had the opportunity to present in several conferences both domestic and international.

研究分野：文化人類学

キーワード：老い 語り 高齢者施設 ケア タイ

## 研究成果報告内容ファイル

### 1. 研究開始当初の背景

#### (1) タイにおける高齢化とタイ社会の理解

産業先進国に始まった高齢化は、もはやグローバルな現象となり、今や中進国となったタイでも、高齢化が急速に進む。平均寿命は男性が75歳、女性が78歳、高齢者(60歳以上)の人口割合は15%である。高齢化への国家レベルの政策対応が始まったのは、本格的には2002年からであり、現在、高齢者ケアをめぐる政策は、自助努力と家族の支援、そしてコミュニティ、最後に国家の支援によるとされ、高齢化やケアをめぐる実質的な政策の不十分を家族の負担が補っている。その家族も1960年の5.6人から2010年の3.2人へ平均規模が縮小しており、離婚率の上昇、結婚の遅延、少子化、都市化や移動により負担を担い切れなくなっている。

タイでは、家族親族やコミュニティの社会関係が濃密であるとされ、上述の政府の政策に限らず、多くの親族に囲まれた幸せな老後が理想として描かれてきた。タイの文化や価値観の主流を成す上座仏教の実践では、両親への報恩が重視されるとともに、死生観など、老いや死に対するある種の達観があるとされてきたのである。また、タイ社会は、双系的社会組織を基盤とし、家族を核とする関係のネットワークがあり、私的領域の境界が曖昧であると指摘され(立本成文2000『家族圏と地域研究』など)、市場や地方自治体とも融通しあう在地社会の基盤にあるつながりの原理そのものや、社会資本の豊かさが高齢者の生活を支えていると理解されてきた。本科研の代表者は、東南アジアの家族に関する研究(Hayami et.al. Eds.2012)を実施し、家族の制度的展開、政治的言説、社会文化的動態について多分野の研究者と議論しこの圏的な広がりとその動態を明らかにしてきた。

しかし今や、産業化・家族領域の変化が顕著に進行し、高齢化する人口を家族のケアのみでは支えきれない。では現状で、親族組織・家族・コミュニティの中で高齢者はどのように老いを迎え、自らの生活を形作っているのか。高齢者の生活は引き続き従来の社会資本に支えられているのか。それとも、変化する社会基盤のなかで、他のオルタナティブを見出しているのか。高齢者をめぐる規範や価値は持続しているのか、それとも新たな語りが生まれつつあるのかを問う。

#### (2) 研究動向と位置づけ

東南アジアにおける高齢化の研究は、人口変動に基づく制度・政策の展開とその社会的影響を、先進産業社会のモデルや指標により制度中心にマクロに比較検討したもの(大泉啓一郎2007『老いてゆくアジア 繁栄の構図が変わるとき』など)や、東アジアを中心に家族や親密圏のケア労働(落合恵美子・赤枝香奈子編2012『アジア女性と親密性の労働』)に集中したものがあがるが、いまだ途に就いたばかりである。老いの経験は、制度・政策めきには理解できない一方、当事者の経験は、そうした制度とは隔たったところにあり、社会・文化的文脈によって規定され、階層や生業形態、投資と農村、宗教などによって様ではない。高齢者の日常生活は、自らを取り巻く物理的な環境や親密圏とその外に広がる社会関係、それらの相互作用によって形作られる。

本科研代表者は、「東南アジアにおけるケアの社会基盤」(科研基盤A平成25~27年度)において、東南アジア各国の制度と実践の両面からケアの現状を比較検証する共同研究を進めてきた。東南アジア社会では、公的制度は遅れる一方で、先進国のような家族の私的領域としての囲い込みが必ずしもみられない。先進国に当てはめられてきた「公私」や「官民私協」4領域の諸前提を取り払い、ケアがいかに社会に担われているかを問い、東南アジアにみられるケアの関係性の広がりから、先進産業社会発の議論とは異なるケア社会への視点を探究してきた。

しかし社会経済的な急激な変化のなかで、高齢者自身はどのように老いとケアを経験しているのか。家族などによるケアの享受を期待できない高齢者には、どのような道があるのか。老いを迎える人々自身の価値観や選択は、今、特に都市部で揺らぎをみせている。本科研では、タイ、中でも旧来の社会関係の濃密さが指摘されてきた北タイに焦点を絞り、高齢者の語りから理解を立ち上げ、老いと高齢者の生活、それらが周囲のケアの社会関係のなかでどのように成り立っているかを検証した。

#### (3) 制度の現状と語りへの注目

チェンマイにある高齢者福祉施設は、市内で生活する多くの高齢者にとっては、身寄りのない、ケアする人も住む場所もない「気の毒な」高齢者の救護的な施設で、理想的な老後とはほど遠い場所とされる。政府も、こうした公的施設は「困窮した高齢者のための最後の手段」と位置づけ、全国12カ所に設置されている。しかし、同施設の入居高齢者に話を聞けば、「親族の負担になることなく自由に過ごせる」という語りもある。また、現在家庭で親のケアを担う中年層の多くは、自ら「子供の世話にはなりたくない」と語る。しかし、中流程度のタイ人にとって、老後に自ら選択できる施設等は限られている。このように、老後を迎えることについて、制度政策が現状に追いついていないなかで、現在のタイは、その語りは大きく揺らいでいる。

近年看護学などの分野で、ケアにおける語りの重要性が論じられている。ケアが一対一の間人的な関係に基づくものであるなら、その実践において個々人の語りは重要である。個々の生活の文脈の中で揺らぎを含む語りに耳を傾けることは、それぞれの社会的文脈とそこに向けられる期待や規範の有り様を読み解く上で有効な手段となる。そうした語りの集積から、現在のタイに

おける高齢者の老いの迎え方、ケアをめぐる期待や規範、高齢者ケアをめぐる社会の動向を明らかにする。老いをどのように経験し、どのような言説にさらされ、それに対抗し、自ら老いを語りケアを獲得しているかを検討した。タイは、階層社会と言われるが、老いの語りと階層差はどのように切り結ぶのか。また、ジェンダー差は、老いの語りにどのように影響しているだろうか。高齢者の経験の普遍性とタイの特異性を問いつつ、現代タイ社会の動向の一端を明らかにした。

## 2. 研究の目的

タイにおける高齢者ケアの担い手は、コミュニティや様々な市民レベルの新たなネットワークや活動、寺院など宗教施設における高齢者ケア、在宅での家族親族によるケアと家族親族以外の市場ベースのケア、市場ベースの高齢者施設などにおけるケア、そして本来、困窮した高齢者のために設立された公共施設のケアなどである。これら的高齢者ケアの場の選択は、個々の高齢者の諸条件（都鄙、階層、男女、婚姻や家族の諸条件）により大きく異なる。民族誌的な調査の常として、長期的な関係を築くことでより信頼性の高い語りを聞き取ることができる。様々な場面における高齢者の語りを集積し、現在、タイでどのようなケアが期待され、規範化されているのか、それは階層やジェンダー、居住地域や家族の諸条件によってどのように異なるのか、そこで様々なケアへのアクセスはどのように採用されているかを検証する。そして、今日のタイにおける高齢者ケアの向かう方向、政策として重視すべき点を明らかにする。それとともに、タイ社会自体が現在どのように変動しているのかを、高齢者のケアをめぐる語りを通じて明らかにする。現在、高齢化が進むなかで、家族や社会の変容に政策が十分に手当てできていないと言われるタイにおいて、高齢者自身がどのように老いを迎え、どのように自らの老いとケアへの思いを語り、周囲はどのようにこれに対応しているのか、語りを通じて各文脈に則してみていくのが本研究の特色である。

## 3. 研究の方法

本研究では、様々な高齢者ケアの場面でインタビューを実施して語りを集積し、それを個々のケースの社会的文脈、特に都市と農村部、階層、ジェンダー、そして家族の諸状況に応じて、そこからタイにおける老いを迎える語りを、制度政策や市民活動、家族の変容などの文脈で分析・理解してきた。その結果についてタイの高齢者をめぐる現場に関わる人々や研究者と意見を交わし、国内外の学会で発表し、その後、投稿論文と書籍として発信した。

### (1) 北タイ・チェンマイ県における現地調査

本研究では、当事者による語りを重視した民族誌的な調査を実施した。高齢者による自らの人生のなかで形成されてきた生活環境、社会関係などが現在どのように老いを迎えるなかで機能しているか/いないか、高齢をどのように迎えているか、現在の生活と周囲との関係などについて質問で促しつつ自由な語りを聞き取った。また、高齢者の周囲で様々な形でケアに関わる(親族、コミュニティの人々、ボランティア、他様々な形でケアに従事する)人々からも聞き取りを行った。

中心はチェンマイ県都鄙のタイ人社会：タイでは、高齢者を、その活動範囲・生活能力によって3タイプに分けている。すなわち、A 自らの身の回りの世話もすることができ、諸活動に参加する高齢者、B 家の外にはあまり出られないが身の回りのことは自分でできる高齢者、そしてC ほぼ寝たきりで介護を必要とする高齢者である。それぞれのタイプにより、ケアのニーズ、場や担い手も少しずつ異なる。コミュニティや宗教施設での様々な市民レベルの活動としての高齢者ケア（これは主にAを対象とするが、BやCにも目が向けられつつある）、在宅での家族親族によるケア、在宅で家族親族以外のケアを受ける高齢者、医療や介護設備を備えた施設におけるケア、社会福祉養護老人ホームという政府系の基本的に身寄りの無い高齢者のための施設のケア、などが見られる。これらのケアの提供やアクセスは、個々の高齢者の諸条件(都鄙、階層、男女、婚姻や家族の諸条件)などにより大きく異なる。このことに留意しつつ、多様な場面での聞き取りと分析を実施する。

山地民族の事例：チェンマイ県には様々な民族が居住する。申請者は、1987年よりタイにおいて文化人類学的調査を実施してきており、ほぼ30年にわたる山地民族社会の社会変化について、ジェンダーや家族への関心から、本研究と関わる資料も収集してきた。山地では人口構造の変化が低地地よりも遅く始まり、現時点で高齢者ケアは厳しくなることが予見されるものの低地地ほどではない。そうした山地の諸条件も比較の対象とする。

首都バンコクと比較：バンコクは、都市化の進行により、ライフスタイルの変化が最も著しく、高齢化の影響も大きいとされる。このため、短期となるが高齢者施設や、コミュニティ・ネットワークなどを訪問して実態を見聞することにより、チェンマイの事例を位置づけた。

### (2) 調査結果の分析

分析は量的な解析ではなく、文化・社会的文脈に沿った解釈・理解を中心とする民族誌的な手法により、各場面の状況を質的調査に基づき記述・分析したうえで、各場面での高齢者の生活・老いの体験を浮き彫りにした。また、階層や家族構成、ジェンダーなどの差による相違を明らかにした。施設や組織に関しては、特に時間的な深度を考慮してタイ語の文献や資料を用いて、その展開過程をおいつつ、現状をタイ文化・社会や政治的展開の文脈において理解した。

### (3) ワークショップ開催や学会発表

最終年度7月に、編著『東南アジアにおけるケアの潜在力』の書評会を開催し、インタビューと語りを重視した寄稿論文を中心に発表と議論を実施した。また、9月にはタイの人文科学フォーラムにて、成果を発表し、貴重なフィードバックを得ることができた。参加されたタイの人類学者ヨット・サンタソンバット教授(チェンマイ大学)から、「タイ人の知らないタイを教えてもらった。政策を立案する人たちにも聞いてもらいたい内容だった。」と評してくださった。12月には、SEASIA 国際会議において、「東南アジアの周縁女性の語り」と題したパネルを組織し、タイ、ベトナム、ミャンマー、マレーシアについて5名の発表者が発表を行い、最終日の午後であったにもかかわらず、満席の聴衆を得て好評を得て、有益なコメントを得ることができた。

### (4) 論文・書籍の執筆

編著書『東南アジアにおけるケアの潜在力』を刊行し、また英文査読付き論文1本、寄稿論文2本、タイにおけるケアと仏教に関する書籍の書評などを刊行した。

## 4. 研究成果

初年度4月より長期出張にてコーネル大学(米)に滞在し、世界随一を誇る東南アジア関係蔵書を有する同大学図書館で、タイの高齢者とケアを中心とする資料を渉猟する一方で、高齢者による語りと記憶をめぐる文献にあたりながら、これまで北部タイで実施した長期調査で得た語りの記録を聞き直し、読み直し、語りをいかに記述するか、どのように解釈・分析していくかを検討した。また、これまでの調査研究の成果を発表する機会があった。5月にコーネル大学の東南アジアプログラム、Gatty Lecture Seriesで口頭発表により、タイの高齢者ケアにおけるコミュニティの関わりを中心に発表し、高齢化社会を迎えたタイの地域社会で、既存の社会関係を踏まえてケアをめぐる新しいネットワークが形成されていることを考察した。7月には、北タイで調査の機会を得て、前年度に引き続き、高齢者施設でのインタビューを実施した。9月には台湾中央研究院の若手セミナーに基調講演者として招かれ、高齢者施設での聞き取りと語りを中心に、老いとケアの経験について、また語りの分析について考察した。

2年度目の主要な活動は三つである。第一に、北部タイの都市チェンマイにおける高齢者施設で昨年以前に実施したインタビューの分析である。老いを迎えて家族など身寄りのない高齢者のための施設の入居者のインタビューの内容は、生い立ちや家族との関係、施設に入所するに至った経緯と、施設での日々に関するものである。特に12名のインタビューの録音テープを起こし、整理しながら分析の方途を、精神分析や医療におけるケアと語りに関わる先行研究などから学びつつ分析した。

第二に、高齢者施設ばかりではなく、家族に囲まれた生活から一歩外に出て、社会参加する高齢者のための地方自治体などによる活動や、身体的な制限により家から出られない高齢者のためのリハビリ活動、また寝たきりの高齢者のための訪問活動など、現在タイにおいて国家と家族のはざまでのどのようにケアが担われているのかを、彼らの語りに耳を傾け考察する論稿をまとめ、投稿した。タイにおける高齢者ケアの社会化についての研究は、ますます高齢化が進むタイ社会の今後を見通すうえでも重要である。以上の二つのテーマに関わる補足のための短期現地調査を10月に実施した。

第三に、『東南アジアにおけるケアの潜在力：生のつながりの実践』(京都大学学術出版会)を編集し、3月に刊行した。編者として序章で東南アジアにおけるケアについて概説をして全17篇の研究論文からなる本書を紹介し、また各論の章を一章担当し、タイ山地における高齢者の生活とケアについての考察を、本科研による補足調査を踏まえて執筆した。

最終年度は、成果をまとめ、口頭で発表する機会が少なからず得られた。特にチェンマイの高齢者施設における高齢入居者のライフヒストリーについて、最終年度になって、ようやくインタビューの書き起こし整理を終え、詳細に読み直すことができた。

子が老親を介護することを当然とする規範や言説の強いタイ社会にあって、子や家族のケアを受けることができずに国立の救護施設ともいえる高齢者施設に入居している高齢者の語りである。読み直すなかで、彼らが自らのこれまでの生と施設における生活をどの様に語り、言説や国の政策について正負両様のベクトルの語りが聞かれ、しかしいずれにしてもそこにはとらわれない自らの生をも語っている。規範や言説に抗する語りが聞かれる一方で、そこから離れた各自の語りについて考察する方途を見出すことができたのが大きな収穫であった。従来、発展途上国や東南アジアにおける高齢化社会の研究はほとんどが数量分析によるマクロなものであったが、本科研課題では、近年、医療とケアにおいて重要性が注目されてきた語りに焦点を当てて、高齢者自身が今を生きるうえで、どの様に自身の生涯を語りながら、日々の生活を営んでいるか、受け身に言説において周縁化されるのではなく、自らの生を生きやすくする語りを紡いでいるかを分析することができた。

これは、9月に東北タイのマハーサラカム大学で開催された、第13回タイ国人文科学研究フォーラムでの基調講演や、12月に台北の台湾中央研究院で開催された「アジア発の東南アジア研究コンソーシアム」の第3回大会で、「東南アジアにおける周縁女性の語り」と題して自身で組織したパネルにて発表することができ、有益なコメントを得られた。現在、この発表原稿を論文としてまとめる作業に着手している。加えて、成果として前年度末に出版した『東南アジアに

おけるケアの潜在力』の書評会を開催して豊かなフィードバックを得ることができた。また、タイにおけるケアとコミュニティに関する論文を二本刊行することができた。

今後は、以上の成果を更に論文として投稿するとともに、こうした語りや高齢者の実践のなかでも顕著であった宗教的な要素に着目して、上座仏教圏において老いとケアに宗教がどの様に関わるかを検討する。

#### 【参考文献】

大泉啓一郎 2007 『老いてゆくアジア 繁栄の構図が変わるとき』2007 中公新書

落合恵美子・赤枝香奈子編 2012 『アジア女性と親密性の労働』京大出版会

立本成文 2000 『家族圏と地域研究』京大出版会

Hayami, Yoko Junko Koizumi, Ratana Tosakul, and Chalidaporn Songsampan Eds.2012 *The Family in Flux in Southeast Asia: Institution, Ideology and Practice* Silkworm Press and Kyoto University Press.

#### 5 . 主な発表論文等

##### [雑誌論文]

2019 “Between state and family: Biopolitics of elderly care and emerging communality in Northern Thailand” *Southeast Asian Studies*. Vol.8 No.3: 387-412. DOI: 10.20495/seas.8.3\_387

##### [学会発表]

2019年12月7日 “Women’s Voices from a Thai Older People’s Home” The 3rd SEASIA Conference. Panel “Women’s Narratives from the Margins in Southeast Asia”. Academia Sinica, Taipei. (パネル組織・発表)

2019年11月23日 「高齢化する東南アジア社会は日本と同じ道をたどるのか—タイの事例から」学会主催シンポジウム『東南アジアと日本の長期変動—人口変動・労働移民・少子高齢化』於：静岡県立大学.

2019年9月6日 Keynote Speech. Thinking about Care and Aging in Thailand Today a Humanities Perspective “New Regionalism and Localism in the Borderless world“ The 13th Thai Humanities Research Forum. Mahasarakham University.

2017年9月8日 “Narratives of Elderly Who Are “Lacking Care” Considering Biopolitics from a State Elderly Home in Northern Thailand” Keynote Lecture at CAPAS-CSEAS Conference on Young Scholars of Southeast Asian Studies

2017年5月4日 “Power and Communality : Aging and Elderly Care in Northern Thailand” Cornell Gatty Lecture Series. Ithaca.

##### [図書]

(編著)

2019 『東南アジアにおけるケアの潜在力 生のつながりの実践』京大出版会

(編著への寄稿)

2019 「北部タイにおける高齢者ケアをめぐる共同性の再編」森明子編 『ケアが生まれる場 他者とともに生きる社会のために』ナカニシヤ 19-37頁

2019. 「序章」速水洋子編 『東南アジアにおけるケアの潜在力 生のつながりの実践』京大出版会 1-27頁

2019. 「ケアから見なおす共生の形 山地カレン村落における高齢者の棲み方」速水洋子編 『東南アジアにおけるケアの潜在力』京大出版会 263-289頁.

##### [その他]

2018 Julia Cassaniti. *Living Buddhism: Mind, Self, and Emotion in a Thai Community*. Cornell University Press, 2015. *Journal of the Siam Society*. Vol.106:342-345.

2019年11月18日 一般向け講演「タイで生きる・老いる・ケアすること フィールドワークから考える」『「東京で学ぶ京大の知シリーズ 33」京都大学の女性リーダーたち』京都アカデミアフォーラム in 丸の内.

#### 6 . 研究組織

研究代表者個人による研究課題であるが、タイでは、高齢者施設、高齢者協会、コミュニティ・ボランティアや研究者の協力を得た。彼らとの議論やアドバイスは不可欠であった。また、日本では、「東南アジアにおけるケアの社会基盤」(基盤A)のメンバーが、タイを始め東南アジア各国のケアをやはり民族誌的に研究しておあり、意見交換は有意義であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Hayami, Yoko	4. 巻 8-3
2. 論文標題 "Between state and family: Biopolitics of elderly care and emerging communality in Northern Thailand"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 387-412
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20495/seas.8.3_387	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hayami, Yoko	4. 巻 31-2
2. 論文標題 "Karen Culture of Evangelism and Early Baptist Mission in Nineteenth Century Burma"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Social Sciences and Missions.	6. 最初と最後の頁 251-283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） <a href="https://doi.org/10.1163/18748945-03103006">https://doi.org/10.1163/18748945-03103006</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 速水洋子	4. 巻 47
2. 論文標題 書評：吉松久美子著『移動するカレン族の民族誌：フロンティアの終焉』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東南アジア 歴史と文化	6. 最初と最後の頁 177-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hayami, Yoko	4. 巻 106
2. 論文標題 書評：Julia Cassaniti. Living Buddhism: Mind, Self, and Emotion in a Thai Community. Cornell University Press	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of the Siam Society	6. 最初と最後の頁 342-345
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hayami, Yoko	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 書評: Ooi Keat Gin and Volker Grabowsky (eds). Ethnic and Religious Identities and Integration in Southeast Asia.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Burma Studies	6. 最初と最後の頁 164-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hayami, Yoko	4. 巻 2
2. 論文標題 "Building pagodas and constructing charisma in the Myanmar- Thai border region"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 13th International Conference on Thai Studies.	6. 最初と最後の頁 485-499
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hayami, Yoko	4. 巻 44-1
2. 論文標題 Book review: "Metamorphosis: Studies in Social and Political Change in Myanmar"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 American Ethnologist	6. 最初と最後の頁 181-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Hayami, Yoko
2. 発表標題 2019年12月7日 Panel Organizer, presenter and moderator. "Women's Voices from a Thai Older People's Home" Panel "Women's Narratives from the Margins in Southeast Asia"
3. 学会等名 The 3rd SEASIA Conference (Academia Sinica, Taipei) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 速水洋子
2. 発表標題 「高齢化する東南アジア社会は日本と同じ道をたどるのか タイの事例から」学会主催シンポジウム『東南アジアと日本の長期変動 人口変動・労働移民・少子高齢化』
3. 学会等名 東南アジア学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hayami, Yoko
2. 発表標題 Thinking about Care and Aging in Thailand Today a Humanities Perspective
3. 学会等名 The 13th Humanities Research Forum (Mahasarakham University)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hayami, Yoko
2. 発表標題 Narratives of Elderly Who Are "Lacking Care": Considering Biopolitics from a State Elderly Home in Northern Thailand.
3. 学会等名 CAPAS-CSEAS Conference on Young Scholars of Southeast Asian Studies.（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hayami, Yoko
2. 発表標題 Building Pagodas and Constructing Charisma in the Myanmar-Thai Border Region.
3. 学会等名 The 13th International Conference on Thai Studies, Chiangmai.（国際学会）
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 Hayami, Yoko
2. 発表標題 Power and Commnality: Aging and Elderly Care in Northern Thailand
3. 学会等名 Cornell Gatty Lecture Series. (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 速水 洋子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 596
3. 書名 東南アジアにおけるケアの潜在力	

1. 著者名 森 明子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 328
3. 書名 ケアが生まれる場(分担執筆 19-37頁)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>東南アジア地域研究研究所 英文要覧 2017 - 2018  <a href="https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/cseas_report_2017_2018.pdf">https://kyoto.cseas.kyoto-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/03/cseas_report_2017_2018.pdf</a></p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----